

お母様とのお話あひ

東京市京橋區
昭和幼稚園

白根美智子

ひまり幼稚園に限らず、學校ミ家庭ミの連絡ミいふ事は近年八釜しく云はれて居りますが、實際は小學校中等學校ミ進むに連れて難かしく、仲々理想通りにはゆかない様でございます。せめて幼稚園だけでももつミ家庭に近寄つて子供を中心に歩調を合せて進んでゆきたいと思ひまして、春秋の大園外保育を幼稚園ミ家庭ミの親睦會の様にして見たり、母の會を作つて講演や講習をしてお母様方に度々来ていたゞく様にして見たり、又保育の實際を毎週家庭に通知したり、一生懸命に努力致しまして、一年或は二年の在園中に一度もお顔をお出しにならないお母様すらある現狀では本當に心細いございます。

先頃もこんな事がありまして餘計こうした問題について考へさせられてゐます。

Sは組中で一番身體も大きく、知能の發育も進んでゐて見るからに頼母しさうな子供です。それでゐて意張るでもなく、意地悪をするでもなく、生意氣でもなく、いつの間にか組中の人氣を一人で集めて居ります。お母様がお醫者様で毎朝出勤の時連れていらつしやいます。或朝

「いつもは朝早くから幼稚園へ行くゝミ騒ぎますのに、昨日から何だか元氣がなく、今朝も火鉢の前で、寒いから休まうかなあミグズ／＼してゐますので熱を計つて見ましたが何ミもありませんので連れて參りました」。

ミ仰言いますので入園以來一日も休んだ事がないのにござした事かミ思ひましたが、

「今「不順で風邪が多うございますから注意致しませう。お悪い様でしたらお電話致しますから」。

「云つてお別れました。お母様がお歸りになるまで直ぐSが来て、

「先生、昨日僕菊の花のお金探したけき何處にもなかつたよ。」

「申しました。菊の花のお金申しますのは恰度その頃私の組で動物園を作りましたので、動物園ごっこに使つてゐたものなのです。始め入場料五錢、繪葉書一枚五錢にしまして、ボール紙を圓く打抜いたのを一つ五錢に使つて居りましたが、暫らくたつと同じ事に飽きて來た様子でしたので、今度は菊の花型の打抜きを作つて十錢ししお釣りのやり取りを始めました。ところが一日の中にその菊の花がすっかりなくなりましたので一番澤山持つてゐたSに尋ねましたところ、ポケットを散々調べた上

「家にあるかも知れないから探してみろ。」
「申ししたのです。」

その返事なのです。そしていつも一秒のすき間もない程キビ／＼した子が妙にグズ／＼してゐるのです。私はなかつた事を心配してゐるのかと思ひ、可愛さうになりまして、

「まあ、それを心配してたの？、なければいゝのよ、又作りませう。さあ早く行つて遊んでいらつしやう。」

「申します喜んで飛び出してゆきました。翌朝お母様に「昨日はあれからお元氣でしたか？」

「尋ねます。」

「お蔭様で何でもなかつた見え、大層元氣でございます。」

「その事でした。」

その時は別に何とも思ひませんでしたがおふみSが朝出遊つたのはその爲かも知れないと氣がつかまりましたのでお晝休みをいらしたお母様にその事をお話致します。」

「何とも申しませんでしたけれど、丸の打抜いたのなら澤山打つて居ります。菊のはいかゞか存じませんけれど。」

「お仰言るのでございます。丸のも菊のも家へ持歸る事は極めてある事を申します。お母様のお眼には早涙が光つて

「歸りましたらよくきいて見ませう。」

「お歸りになりました。翌朝早くいらして、

「先生、これだけでございしました。菊のものはいつて居りま

す。机の上の箱の中にきれいにしまつてありましたから何も云はずに、Sちゃん先生が持つていらつしやいミ仰言つたから皆、幼稚園へ持つて行きませうミ申して持つて参りました。」

「二百位お出しになりました。そして

「私からは何も申してございませんから、よろしい様にお導き下さいませ。」

「云つてお歸りになりました。私はお晝頃迄色々考へました。頭がずつミ進んでゐる子供だけに慎重に扱はなければならぬと思ひ、みんながお辨當の仕度でゴタ／＼してゐる時にそつミ呼んで尋ねました。」

「これさうしたの？、さうしてこんなに澤山持つてゐたの？」

「……………」

「お家へ持つて歸つちやいけないこと、知らなかつたの？」

「うん」

「ぢや知つてたのね。知つてゝさうして持つてつたの？」

「ほしかつたの？」

「うん」

「これで何して遊んだの？」

「遠くへミばせつこして遊んだの」

「昨日先生にお家になかつたよつて云つたの何故？」

「だつてあの時めつからなかつたんだもの」

「そう。ぢや、その時、なかつたよつて云はないで、探しても見付からなかつたのつて云へばよかつたのね。」

「うん」

「今度からほんミの通り言ひませうね」

「うん」

「Sちゃんがさがしても見付からなかつたのに、さこから出て來たの？」

「僕がしまひ忘れてゐたらお母様がさこからか出して來て、幼稚園へ持つて行きませうつてミ言つたんだから僕知らない。」

「そう。ぢやお母様に伺ひませうね。Sちゃん、一番始めにさうして「先生、僕おうちで持つて遊びたいからこれ

頂戴「つて云はなかつたの？、これからそうしませうね」。

「うん」

「ちや一度返して下さつたのだから、Sちゃんがほしければ今度は先生があげませう、要る？」。

「うん」

「ちやいるだけあげませう、お取りなさい」

一生懸命より取つてゐたSが突然ワーツミ泣き出ししました。

「何故泣くの？ おだまりなさい」

「一言云つたらすぐ泣き止みました。ほんの一瞬間でした。

素早く涙を拭くほしだけ持つて、

「これでいゝ。ありがたう」

「元氣よく出てゆきました。その日お辨當をわざとSの隣のテーブルでいたゞきながら様子をみてゐましたが先生先生ミ呼びかけて、いつもミ少しもかはりませんでした。

お晝休みに心配して様子を見到いらしたお母様にくわしくお話して

「少しも御心配なさる事はないでせう。たゞ今日お歸りに

なりましたら、今日の様子をたづねて見て下さい」。

「お頼みしました。翌朝

「先生、さうも色々有難うございました。昨日先生に伺つて参りました通りを本人も申しましたので私からもよく申聞かせました。自分でも氣になつてゐた事が片付いてサバくしたらしく、昨夜お風呂にはいりましたら、お母様僕がこの小學校に行くの？ミ申しますからそうね慶應にでもませうかミ申しますミ、僕いやだ、僕いつまでも幼稚園に居たい。ミしんみり申して居りました。みんなに叱られるかミ思つてゐたので餘程嬉しかったです。さうございませう」。

「言はれてホツミしました。Sは相變らず組の人氣を一身に集め此のうす寒さにも汗びつしよりになつてはねまはつてゐます。」

「この問題はこんなに心配しなくてもいゝ性質のものかも知れません。それをあまり大事をこつて心配し過ぎたのかも知れません。」

でも若しあの朝お母様から、朝出遊つた事をきかなければ

若し私が變ださ氣付いた時すぐにそれをお母様に云ふ折がなかつたならば、若し又お母様が歸宅なさつて發見された時、一時の感情にまかせて、むやみに責めたり叱つたりなさつたらさ考へるさ一寸怖ろしい氣がします。この事子供にあり勝な、出來心さすら云へない程軽い氣持でなされた事であるさしても、これを不問に附した爲、うそが通るさいふ事を覺らせたさしたら、その結果は怖ろしいさ思ひます。

私達はもつさくお母様さ親しくならなければいけないさ思ひます。それさ同時に何でもな様な言葉にも氣をつけなければいけないさしみさ思ひます。

此の時私のさりました態度方法の是非につきまして、御經驗深くいらつしやいます先生方の御批判さ御教示を仰ぎ度いさ存じましてペンを取りました次第でございます。御指導の程お願い申し上げます。

手技の審査會

フレーベル館主催の新作手技の審査が去月十七日、丸の内會館でありました。手技の審査などする資格は勿論自分にはないし、又そのさあじなどいふ事は、大いに主觀的のものでもある。審査などいふ事を頭におかないで、先づ自分の後學のために出席させてもらはう、お招き下さつた方へは誠に申わけない次第ながら、と一人ことないひながら出かけました。場内ならべられました出品物は五十點、このうち普通の手技、クリスマス用手技の二種類あつてそれさ區分してならべてありました。

岸邊のおちさんが審査委員長であります。

先づ委員長の命のまゝに、最初各自がすぐれたと認めるものを三點づつ選びとりました。それを別室のテーブルの上に並べて見ました。ところが十人十色のこのみで澤山の優秀品が出ましたそして、あまりにも多い優秀品でありました。そこで委員長から、この中からさらに一點だけ選べ、といふ命令が出ました。

前よりは各自で二點づつへつたのですから今度はやゝ優秀品らしくなつてならべられました。委員長、さらにこの中より出品番號の下に、一二三等級をつけて各自が投票するやう發令、これでやつと當選が二品と選外佳作數品とがきまりました。委員等ホツとするかしない間に、委員長ニコニコしながら當惑らしく、今の當選者は全部が偶然にも、フレーベル館の社員の出品であります。さらに審査を願ふとの事で一同啞然としながら協議の結果次點者を順次昇級させる事に決定されました。全國の保姆さん奮起せよ(女子のため)と私の心のどこかでさげました。主催側(主として男子ばかり)では多大の興味をもつて力作につとめた結果であらう、一般応募者には大じた熱もなかつたためであらう。なごこの結果から見ての私の一人きりめ判斷、何卒皆さん私の判斷をあやまらせない様に、必勝の新作手技を次のこの催しに御出品下さいませ。(及川)